

## わかる授業をめざして ～少人数指導の充実～

笠間市立北川根小学校では、「わかる授業の工夫ー算数の授業実践を通してー」を校内研修テーマとし、基礎・基本の定着を図り、学力を高めるための多用な学習指導（オープンスペースを活用した少人数指導による個に応じた指導や発展学習）に取り組んでいます。特に、少人数指導の充実を図るために、学年2クラスの算数の時間割を同じ時間に設定し、そこへもう一人の教師を配置することで、2クラスを3人で指導できるように工夫しています。

また、わかる授業の条件を「子どもが学習指導内容を理解したか」「子ども自身に達成感・成就感があるか」の二点とし、児童の側と教師の側との両面から評価し、授業の改善を図っていきとしています。

常井一志校長先生は、「学習意欲を持続させたいと思っています。1時間の授業でわかるようになることが、次の学習意欲につながります。大切なことは、授業の途中ではわからなくても、授業の終わりには100%わかるようにし、誰もおきざりにしないことです。そのために、わかる授業の在り方を研究することにしました。」と話されていました。



### 第6学年算数「場合の数」(単元末)

### 少人数指導の教室から...

いろいろなならべ方と組み合わせ方の問題に挑戦しよう。



6年1組 阿部 八千代 教諭



6年2組 片岡 晶子 教諭

クラス毎に授業を開始しました。本時の課題をつかんだ後、以下の二つの問題を提示しました。全体で話し合っ、これまでに学習した内容を確認しました。

1個の10円玉を3回投げると、表と裏の出方にはどんな場合がありますか。

A, B, C, Dの4チームで野球の試合をします。どのチームもほかのチームと1回ずつ試合をします。全部で何試合になるでしょう。



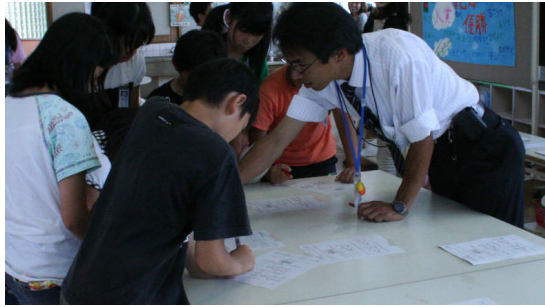
オープンスペースの利用

先生の質問に対する児童の反応も良く、てきぱきとリズムカルに授業が進み、既習事項の確認ができました。続いて、プリント問題に挑戦するときの約束を確認しました。

- 1 先を急がず、文字をていねいに書いたり、見直しをしましょう。
- 2 1枚終わったら、答え合わせをする。
- 3 まちがえたら、もう一度やり直す。
- 4 全問正解したら、先生に見せて次のプリントに進む。



個別指導の様子



研究主任 大野 純一 教諭

オープンスペースのテーブルには、プリントの解答が置かれ、児童が自分で採点できるようになっています。別のテーブルには、難易度によって5段階に分けられたプリントが、1段階につき2枚ずつ合計10枚用意されています。全員が2段階まで合格することが目標です。

プリントが配られると、児童は夢中で問題を解き始めました。終わった児童は、オープンスペースの解答の所に行き、自分でまるつけをします。つまりいたときは、担任の先生にヒントをもらったり、個別に教えてもらったりすることができます。

全問正解できたら、大野先生に確認してもらいます。大野先生から合格の印をもらったら、次のプリントに進むことができます。採点ミスや解答もれ等で、やり直しをする児童もいました。答えが間違っていたら、全問正解できるまでやり直します。


30分間問題に挑戦した結果、全部のプリントを終えた児童が4人、3段階以上終えた児童が35人いました。目標である2段階は、44人全員が合格できました。

月 日 年 組 名まえ

---

きょう（今日）のじゅぎょう（学習）は、わかりましたか。

- 1 よくわかった。
- 2 だいたいわかった。
- 3 すこしわからなかった。
- 4 わからなかった。



授業の最後に、振り返りカードを使って自己評価をおこないました。本時の授業については、全員が「よくわかった。」と回答しました。

ノートに書かれた感想には、「私は、いままで勉強していたのに、わからなかったことがいっぱいありました。先生に教えてもらいながらやって、わからなかったところややり方がよく分かりました。」「プリントをやって、新しい解き方がわかったのでよかったです。」など書かれていました。

1 単位時間の授業の中にも、本時に学んだことを練習する時間は確保する必要がありますが、本時のように、単元のまとめに、それまで学んだことの定着を図る時間を設定することも大切です。

児童が自分たちで学習を進めていく中で、3人の先生からたくさん声をかけてもらい、全員に目標の達成と「よくわかった」という実感をもたせることができた本時の授業は、少人数指導のメリットを生かした学習スタイルの一つです。

また、こうした定着を図る時間においても、問題の答えだけでなく、答えを導くまでの児童の考えなど、答えにいたるまでの過程にも積極的にまるをつけたり、筋道を立てた自分の考えを先生の前で話をさせたりする活動を工夫することができます。

**不登校ゼロ  
をめざして**

全教職員で、温かな“声かけ”をする

教職員が一人一人の子どもの名前を知っていることは、みんなで育てる温かな学校への第一歩です。北川根小学校の用務員の鈴木勝子さんは、全児童の名前を知っていて、いつでもどこでも子どもたちに声をかけてくれます。遅刻して来た子どもにも温かな言葉をかけて、職員室の先生の所へ連れて来てくれます。まるで、全児童のお母さんのように接してくれる用務員さんのことを、子どもたちもみんな大好きです。

